

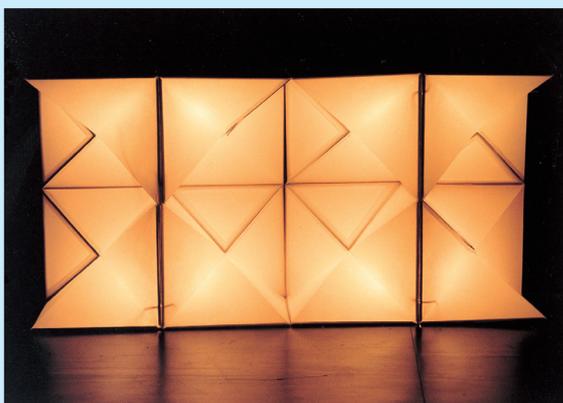
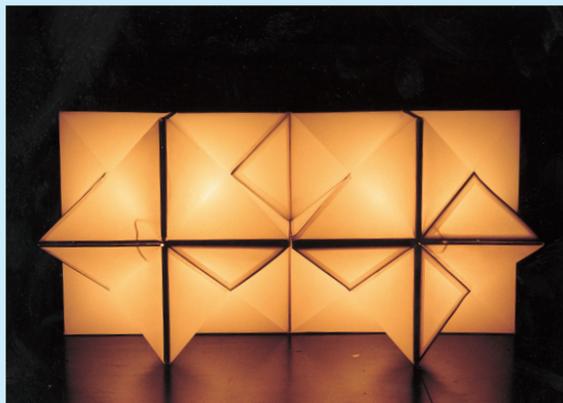
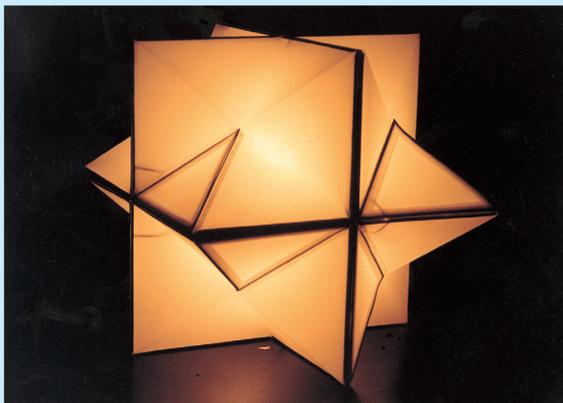
# 大学評価 学位授与

# 機構ニュース

National Institution for Academic Degrees and  
University Evaluation

第 33 号

平成 16 年 2 月発行



「光」 子迫 圭子

(平成 14 年度学士(芸術学) 取得者)

300~1200mm×300~1200mm×300~1200mm シナベニア, トレーシングペーパー

## 主な記事

◆大学評価事業の状況…………… 1

◆機構の窓…………… 7

◆学位授与事業の状況…………… 2

◆海外渡航余話……………12

# 目 次

## ◆大学評価事業の状況

### ■平成 14 年度着手の大学評価事業

- 「評価結果(評価報告書(案))」の送付と「意見の申立て」の照会について…………… 1

### ■大学機関別認証評価について

- 「独立行政法人大学評価・学位授与機構が行う大学機関別認証評価について(報告)」について…………… 1

### ■委員会等の設置について

- 短期大学評価準備委員会及び高等専門学校評価準備委員会の設置について…………… 1

## ◆学位授与事業の状況

### ■短期大学・高等専門学校卒業生、専門学校修了者等に対する学士の学位授与関係

- 2,129人から学士の学位授与の申請 — 平成 15 年度 10 月期 — …………… 2

### ■認定課程(各省庁大学校)修了者に対する学位授与関係

- 21人に博士の学位を授与 — 大学院博士課程相当の課程修了者 — …………… 3

### ■認定専攻科関係

- 新たに17専攻を認定 — 平成16年度 — …………… 3

- 認定専攻科の教育の実施状況等の審査…………… 4

### ■学士の学位取得者に対するフォローアップ調査について

- 「学士学位を取得された方への1年後・5年後調査」の実施…………… 5

### ■平成 16 年度学位授与事業関係

- 平成 16 年度学士の学位授与申請受付期間及び試験日程…………… 6

- 学士の学位授与制度及び申請方法等関連の刊行物…………… 6

## ◆機構の窓

- 会議の開催状況…………… 7

- 研究部研究会開催状況…………… 8

- 中国教育視察団が機構を訪問…………… 9

- 研究紀要「大学評価」第3号の発行…………… 9

- 委員の異動…………… 10

- 人事異動…………… 11

- 海外渡航一覧…………… 11

## ◆海外渡航余話

- 評価研究部助手 野澤 孝之…………… 12

- 評価事業部評価調査室長 秋保 聡…………… 13

# 大学評価事業の状況

## 平成14年度着手の大学評価事業

### ○「評価結果（評価報告書(案)）」の送付と「意見の申立て」の照会について

平成14年度着手の大学評価事業について、各専門委員会の下に組織された評価チームや部会において、昨年8月以降、各対象機関から提出された「自己評価書」等の分析(書面調査)やヒアリング(分野別教育評価及び分野別教育・研究評価の総合科学分野は訪問調査)を実施し、それを踏まえ各専門委員会で「評価結果案」として取りまとめました。

この「評価結果案」は、平成16年1月27日開催の大学評価委員会(第22回)において、「評価結果(評価報告書(案))」として取りまとめ、各対象機関

に対し「評価結果(評価報告書(案))」を通知するとともに「意見の申立て」に関する照会を行ったところです。

今後、各対象機関からの「意見の申立て」があった場合は、各専門委員会での審議を踏まえ、平成16年3月16日開催予定の大学評価委員会において再度審議を行った上で、最終的な「評価結果」を確定し、「評価報告書」として、当該対象機関及び設置者へ通知するとともに、広く社会に公表する予定です。

## 大学機関別認証評価について

### ○「独立行政法人大学評価・学位授与機構が行う大学機関別認証評価について(報告)」について

機構では、平成15年11月に大学評価準備委員会を設置し、学校教育法に基づく大学の機関別認証評価の評価方法及び評価基準について検討を行い、平成16年2月に「大学機関別認証評価実施大綱(案)」及び「大学評価基準(機関別認証評価)(案)」を取りまとめました。

取りまとめた案については、「独立行政法人大学評価・学位授与機構が行う大学機関別認証評価について(報告)」として、3月末を回答期限に、関係団体等への意見照会を行いました。

なお、本報告については、当機構のウェブサイト(<http://www.niad.ac.jp/hyouka/index.htm>)に掲載しています。

## 委員会等の設置について

### ○短期大学評価準備委員会及び高等専門学校評価準備委員会の設置について

機構では、学校教育法に規定された、短期大学及び高等専門学校の教育研究等の総合的状況の評価についての評価基準及び評価方法等を検討するため、「短期大学評価準備委員会」及び「高等専門学校評価準備委員会」を設置し、これまで次のとおり開催しました。

#### 短期大学評価準備委員会

第1回	1月15日(木)	学術総合センター
第2回	2月5日(木)	〃

#### 高等専門学校評価準備委員会

第1回	12月4日(木)	KKRホテル東京
第2回	1月20日(火)	学術総合センター
第3回	2月3日(火)	〃
第4回	2月20日(金)	〃

# 学位授与事業の状況

## 短期大学・高等専門学校卒業生、専門学校修了者等に対する学士の学位授与関係

### ○ 2,129人から学士の学位授与の申請 —平成15年度10月期—

【専攻区分別】

短期大学・高等専門学校卒業生及び専門学校修了者等からの平成15年度10月期の学位授与申請受付の結果、22専攻分野42専攻区分にわたる2,129人から申請があり、初めて2,000人を超えました。これは、前年度同期の申請者数（平成14年度10月期1,987人）と比べ、142人の増となっています。

基礎資格別の申請者数、各専攻区分別の申請者数は次表のとおりです。10月期の特徴である短期大学及び高等専門学校の認定専攻科修了見込者からの申請は、1,766人となっています。

今回申請のあった2,129人については、平成15年11月11日開催の学位審査会において機構長から学位授与の可否についての審査が付託され、学位審査会では、修得単位、学修成果及び試験の審査を担当する専門委員会を指定しました。

また、平成15年12月7日（日）に東京大学において面接試験が、12月14日（日）に東京工業大学、大阪大学及び九州大学において小論文試験が行われました。

各専門委員会における修得単位、学修成果及び試験の審査を経て、平成16年2月12日開催の学位審査会で最終審査が行われ、合格者には平成16年3月末までに、学士の学位が授与される予定です。



小論文試験（H15.12.14 福岡会場）

### <平成15年度10月期の申請者数>

【基礎資格別】

区 分	申請者数(人)
短期大学卒業生	1,004
高等専門学校卒業生	976
専門学校修了者	106
大学中退者	25
大学卒業生	8
飛び級	8
外国資格	2
合計	2,129

【見込申請者の内訳】

区 分	申請者数(人)
短期大学専攻科修了見込者	799
高等専門学校専攻科修了見込者	967
合計	1,766

専攻分野	専攻区分	申請者数(人)
文 学	国語国文学	8
	英語・英米文学	3
	歴史学	5
	心理学	3
教育学	教育学	171
社会学	社会学	1
	社会福祉学	1
学 芸	比較文化	1
	地域研究	2
	科学技術研究	3
社会科学	社会科学	2
法学	法学	6
経済学	経済学	5
商学	商学	2
経営学	経営学	10
理 学	化学系	1
	生物学系	3
	総合理学	2
薬学	薬学	1
看護学	看護学	123
保健衛生学	検査技術科学	49
	臨床工学	4
	放射線技術科学	130
	理学療法学	17
	作業療法学	12
鍼灸学	鍼灸学	4
栄養学	栄養学	242
工 学	機械工学	287
	電気電子工学	304
	情報工学	70
	応用化学	125
	生物工学	13
	材料工学	21
	土木工学	110
	建築学	54
芸術工学	芸術工学	29
商船学	商船学	1
農学	農学	10
家政学	家政学	1
芸術学	音楽	77
	美術	213
体育学	体育学	3
合計	合計	2,129

## 認定課程（各省庁大学校）修了者に対する学位授与関係

### ○21人に博士の学位を授与 — 大学院博士課程相当の課程修了者 —

平成15年9月に博士の学位授与申請のあった防衛医科大学校医学教育部医学研究科修了者21人全員に博士（医学）の学位が授与されました。

医学・薬学専門委員会医学部会での論文審査及び試験の結果に基づき、平成16年2月12日開催の学位審査会で審査の結果、学位授与が決定されました。これにより、平成3年度の機構創設以来、博士（医学）の学位授与者は208人となりました。平成16年2月26日には学位記授与式が行われ、機構長から、学位記を手にした修了者に対しお祝いと激励の言葉が贈られました。

#### <博士の学位授与申請者及び授与者数>

認定課程名	専攻分野	申請者数及び授与者数
防衛医科大学校 医学教育部医学研究科	医学	21人



学位記授与式（H16. 2. 26）  
小平移転後初めての授与式  
（於：コンベンションホール）

## 認定専攻科関係

### ○新たに17専攻を認定 — 平成16年度 —

平成15年9月に申出のあった短期大学及び高等専門学校専攻科の認定について、専攻科の教育課程及び教員組織等の審査を付託された各専門委員会の審査の結果が、学位審査会に報告されました。その報告に基づき、平成16年2月12日開催の学位審査会における審査を経て、次の10校17専攻を平成16年度から認定することが決定されました。

#### 1. 短期大学専攻科

専攻科名	専攻名	入学定員	修業年限	設置者	適用時期
1 山野美容芸術短期大学専攻科	社会福祉専攻	20	1	学校法人山野学苑	平成16年4月1日
2 東京服飾造形短期大学専攻科	服飾造形専攻	15	2	学校法人田中千代学園	平成16年4月1日
3 大阪キリスト教短期大学専攻科	幼児教育専攻	20	2	学校法人大阪キリスト教学院	平成16年4月1日
4 湊川短期大学専攻科	幼児教育専攻	20	2	学校法人湊川相野学園	平成16年4月1日

（注）「東京服飾造形短期大学は平成16年4月に東京田中短期大学に名称変更予定」

#### 2. 高等専門学校専攻科

専攻科名	専攻名	入学定員	修業年限	設置者	適用時期			
5 函館工業高等専門学校専攻科	生産システム工学専攻	12	2	独立行政法人 国立高等専門 学校機構	平成16年4月1日			
	環境システム工学専攻	8						
6 釧路工業高等専門学校専攻科	建設・生産システム工学専攻	8	2		独立行政法人 国立高等専門 学校機構	平成16年4月1日		
	電子情報システム工学専攻	12						
7 福島工業高等専門学校専攻科	機械・電気システム工学専攻	8	2			独立行政法人 国立高等専門 学校機構	平成16年4月1日	
	物質・環境システム工学専攻	8						
	ビジネスコミュニケーション学専攻	4						
8 米子工業高等専門学校専攻科	生産システム工学専攻	12	2				独立行政法人 国立高等専門 学校機構	平成16年4月1日
	物質工学専攻	4						
	建築学専攻	4						
9 詫間電波工業高等専門学校専攻科	電子通信システム工学専攻	8	2	独立行政法人 国立高等専門 学校機構				平成16年4月1日
	情報制御システム工学専攻	8						
10 新居浜工業高等専門学校専攻科	生物応用化学専攻	4	2		独立行政法人 国立高等専門 学校機構			平成16年4月1日

## ○認定専攻科の教育の実施状況等の審査

本機構の認定を受けた短期大学及び高等専門学校専攻科は、認定後5年ごとに教育の実施状況等についての審査を受けることとされています。

平成15年度は平成5年4月1日及び平成10年4月1日認定の専攻科に係る審査が行われました。

各専門委員会における教育課程及び教員組織等についての審査結果に基づき、平成16年2月12日開催の学位審査会において教育の実施状況等の適否について審査が行われ、審査対象となった32校44専攻（短期大学専攻科24校28専攻、高等専門学校専攻科8校16専攻）全てが「適」と判定され、機構長から専攻科の設置者に通知しました。

### <平成15年度教育の実施状況等の審査結果「適」と判定された専攻科一覧>

#### 1. 短期大学専攻科

専攻科名		専攻名	入学定員	修業年限	設置者	
1	信州大学医療技術短期大学部専攻科	助産学特別専攻	20	1	国	
2	京都大学医療技術短期大学部専攻科	助産学特別専攻	20	1	国	
3	徳島大学医療技術短期大学部専攻科	助産学特別専攻	20	1	国	
4	熊本大学医療技術短期大学部専攻科	助産学特別専攻	20	1	国	
5	東京都立短期大学専攻科	都市生活学専攻	5	1	東京都	
		健康栄養学専攻	5	1		
6	富山県立短期大学部専攻科	生物資源専攻	8	2	富山県	
		地域環境工学専攻	8	2		
7	白鷗大学女子短期大学部専攻科	幼児教育専攻	20	1	学校法人白鷗大学	
8	聖徳大学短期大学部専攻科	服飾文化専攻	10	2	学校法人東京聖徳学園	
		食生活専攻	10	2		
9	白梅学園短期大学専攻科	保育専攻	15	2	学校法人白梅学園	
10	成城大学短期大学部専攻科	教養専攻	30	1	学校法人成城学園	
11	日本赤十字武蔵野短期大学専攻科	地域看護学専攻	30	1	学校法人日本赤十字学園	
12	宝仙学園短期大学専攻科	造形芸術専攻	10	2	学校法人宝仙学園	
13	恵泉女学園園芸短期大学専攻科	園芸学専攻	15	1	学校法人恵泉女学園	
14	昭和音楽大学短期大学部専攻科	音楽専攻	(器楽)	10	1	学校法人東成学園
			(声楽)	10	1	
15	仁愛女子短期大学専攻科	音楽専攻	10	2	学校法人福井仁愛学園	
16	常葉学園短期大学専攻科	音楽専攻	20	2	学校法人常葉学園	
17	名古屋女子大学短期大学部専攻科	生活学専攻	20	1	学校法人名古屋女子大学	
18	日本赤十字愛知短期大学専攻科	地域看護学専攻	35	1	学校法人日本赤十字学園	
19	関西鍼灸短期大学専攻科	鍼灸学専攻	10	1	学校法人関西医療学園	
20	鳥取短期大学専攻科	食物栄養専攻	10	1	学校法人藤田学院	
21	順正短期大学専攻科	幼児教育専攻	5	2	学校法人高梁学園	
22	中国短期大学専攻科	音楽専攻	20	2	学校法人中国学園	
23	活水女子短期大学専攻科	食物栄養専攻	30	2	学校法人活水学院	
24	別府大学短期大学部専攻科	福祉専攻	25	1	学校法人別府大学	
		初等教育専攻	10	2		

## 2. 高等専門学校専攻科

	専攻科名	専攻名	入学定員	修業年限	設置者
25	宮城工業高等専門学校専攻科	生産システム工学専攻	12	2	国
		建築・情報デザイン学専攻	8	2	
26	仙台電波工業高等専門学校専攻科	電気システム工学専攻	8	2	国
		情報システム工学専攻	8	2	
27	富山工業高等専門学校専攻科	機械・電気システム工学専攻	8	2	国
		機能材料工学専攻	8	2	
28	福井工業高等専門学校専攻科	生産システム工学専攻	12	2	国
		環境システム工学専攻	8	2	
29	鈴鹿工業高等専門学校専攻科	電子機械工学専攻	12	2	国
		応用物質工学専攻	8	2	
30	呉工業高等専門学校専攻科	機械電気工学専攻	8	2	国
		建設工学専攻	8	2	
31	久留米工業高等専門学校専攻科	機械・電気システム工学専攻	12	2	国
		物質工学専攻	8	2	
32	神戸市立工業高等専門学校専攻科	電気電子工学専攻	8	2	神戸市
		応用化学専攻	4	2	

### 学士の学位取得者に対するフォローアップ調査について

#### ○「学士学位を取得された方への1年後・5年後調査」の実施

学位審査研究部では、平成11年10月から「学士学位を取得された方に対する1年後・5年後調査」として継続的な追跡調査をしています。この調査によって収集されたデータは、平成12年度の大学審議会答申において継続的な調査・研究の必要性が指摘された「単位累積加算制度」に関する基礎的データとして（機構が行う学位授与制度は、短大・高専等の卒業生が、特定の大学に編入学等することなく、科目等履修生制度等を利用した単位の累積加算によって学士の学位を取得できる、わが国では唯一の制度です）、また平成13年度に実施した学位授与事業についての自己点検・評価の際の資料としてなど、様々な場面で活用させていただいております。

昨年11月には7回目の調査として、平成14年9月に学位を取得された方（401名）と、平成10年9月に取得された方（321名）を対象に調査を実施し、現在、データ入力の作業等を行っているところです。平成10年9月取得者の方々は、ちょうど「1年後調査」の第1回目の対象者にあたるのですが、今回も4年前と同様に多数の方から回答をお寄せいただきました。これによりまして、各人の学位取得に対する評価や意識等に関する経年的な変化についてより詳細な検討を行うことが可能となりますので、今後ともさらにデータを蓄積し、追跡調査としての特性を生かした分析を随時行っていこうと考えております。

これまでの調査結果の概要は、当機構のウェブサイト（<http://svrrd2.niad.ac.jp/journal/listj.html>）の研究紀要『学位研究』に随時掲載しておりますが、研究紀要という性格上、調査の際に取得者の皆様から寄せられました意見や疑問等に十分にお答えすることは難しく、意見の「聞きっぱなし」になってしまっているのではないかと、調査担当者の一人としては危惧しているところです。これらのうち、“大学卒業と「学士」取得の違いがよくわからない”、“機構の知名度やPRの必要性”など、多数の方から寄せられています典型的な質問や意見につきましては、「機構ニュース」の第24号（<http://www.niad.ac.jp/gaiyo/kouhou/pdf/news/news24.pdf>）に、若干の私見とともに回答をまとめた記事がございますので、あわせて参照いただければ幸いです。

末筆ではございますが、これまで「1年後・5年後調査」に回答をお寄せくださった、のべ4,444名の学位取得者の方々（これまでに本調査の対象となった学位取得者の約43%に相当します）に深く感謝するとともに、今後とも調査の趣旨へのご理解をたまり、引き続きご協力をお願いする次第です。

（学位審査研究部 濱中 義隆）

## 平成 16 年度学位授与事業関係

### ○平成 16 年度学士の学位授与申請受付期間及び試験日程

申請時期	受付期間	試験の区分	試験場	試験日
4 月 期	平成 16 年 4 月 1 日 (木) ) 平成 16 年 4 月 7 日 (水) ※当日消印有効 ※申請書類の提出方法は 郵送 (書留) のみ	小論文試験 (学修成果としてレポート を提出した者)	札幌	平成 16 年 6 月 13 日 (日)
			東京	
		大阪		
		福岡		
		面接試験 (専攻区分「音楽」及び「美 術」でレポート以外の学修 成果を提出した者)	東京	
10 月 期	平成 16 年 10 月 1 日 (金) ) 平成 16 年 10 月 7 日 (木) ※当日消印有効 ※申請書類の提出方法は 郵送 (書留) のみ	小論文試験 (学修成果としてレポート を提出した者)	札幌	平成 16 年 12 月 19 日 (日)
			東京	
			大阪	
			福岡	
		面接試験 (専攻区分「音楽」及び「美 術」でレポート以外の学修 成果を提出した者)	東京	平成 16 年 12 月 11 日 (土) 又 は平成 16 年 12 月 12 日 (日) のうち機構が指定する日

### ○学士の学位授与制度及び申請方法等関連の刊行物

本機構では、学士の学位授与制度及び申請方法等について説明した冊子等を作成し、希望者からの請求により郵送しています。

資料を希望する方は、①希望資料名、必要部数及び電話番号を書いたメモ、②返信用封筒 (角形 2 号に送料分切手貼付) を同封して、学位審査課に請求してください。

なお、2 部以上請求する場合の郵送料等、不明な点がございましたら学位審査課にお問い合わせください。

### ◎大学評価・学位授与機構管理部学位審査課

〒 187-8587 東京都小平市学園西町 1-29-1 Tel 042-353-1550 (問い合わせ専用)

資料名	資料の内容	郵送料 (1部のみ請求 する場合)
リーフレット	本機構が行う学士の学位授与制度 (短期大学・高等専門学校卒業生及び専門学校修了者等を対象とするもの) を簡略に説明したもの	120 円
新しい学士への途 - 学位授与申請案内 -	本機構が行う学士の学位授与制度 (短期大学・高等専門学校卒業生及び専門学校修了者等を対象とするもの) 及びその申請方法などを詳しく説明したもの	240 円
学位授与申請書類	学位授与申請に必要な書類等のうち、本機構が指定する書類様式を綴ったもの	200 円
科目等履修生制度の開設 大学一覧	科目等履修生制度を開設している大学の開設学部、出願期間、授業料などを掲載したもの	580 円
大学評価・学位授与機構認定 短期大学・高等専門学校専攻 科一覧	本機構が認定した短期大学・高等専門学校専攻科の学生募集の概要、授業料などを掲載したもの	390 円

# 機 構 の 窓

## ○会議の開催状況

### 大学評価委員会

第 22 回 平成 16 年 1 月 27 日 (火)

・議事

- (1) 平成 14 年度着手の評価に関する意見申立ての取扱いについて
- (2) 平成 14 年度着手の大学評価の評価結果 (オーバービュー) について
- (3) 平成 14 年度着手分の評価結果について

### 大学評価委員会専門委員会 <平成 15 年 12 月～平成 16 年 2 月>

<平成 14 年度着手分>

開催回数

・全学テーマ別評価

- (1) 国際的な連携及び交流活動に関する  
専門委員会 1 回

・分野別研究評価

- (1) 人文学系研究評価専門委員会 1 回
- (2) 経済学系研究評価専門委員会 1 回
- (3) 農学系研究評価専門委員会 1 回

・分野別教育評価

- (1) 人文学系教育評価専門委員会 1 回
- (2) 経済学系教育評価専門委員会 1 回
- (3) 農学系教育評価専門委員会 1 回

・総合科学教育・研究評価専門委員会 1 回

### 学位審査会

第 68 回 平成 16 年 2 月 12 日 (木)

・議事

- (1) 学位規則第 6 条第 1 項に規定する学士の学位授与の審査について
- (2) 認定課程修了者に係る博士の学位授与の審査について
- (3) 短期大学及び高等専門学校の特攻科の認定について
- (4) 平成 15 年度教育の実施状況等の審査について (短期大学・高等専門学校の特攻科)
- (5) 認定課程修了者に係る修士の学位授与の申請予定について
- (6) その他

### 学位審査会専門委員会 <平成 15 年 11 月～平成 16 年 1 月>

1. 審査事項

- ① 短期大学及び高等専門学校の特攻科の認定に係る審査
- ② 短期大学及び高等専門学校の特攻科における教育の実施状況等の審査
- ③ 学士の学位授与申請に係る審査 (学位規則第 6 条第 1 項)

2. 開催回数

文学・神学専門委員会		社会学専門委員会	
(国語国文学部会)	2 回	(社会学部会)	1 回
(英語・英米文学部会)	2 回	(社会福祉学部会)	2 回
(歴史学部会)	1 回	教養・学芸専門委員会	2 回
(心理学部会)	1 回	法学・政治学専門委員会	2 回
教育学専門委員会	2 回	経済学・商学・経営学専門委員会	2 回

理学専門委員会		(栄養学部会)	2回
(数学・情報系部会)	1回	工学・芸術工学専門委員会	
(物理学・地学系部会)	1回	(機械工学部会)	2回
(化学系部会)	1回	(電気電子工学部会)	2回
(生物学系部会)	1回	(情報工学部会)	2回
医学・薬学専門委員会		(応用化学部会)	2回
(医学部会)	1回	(材料工学部会)	2回
(薬学部会)	1回	(土木工学部会)	2回
看護学・保健衛生学・鍼灸学専門委員会		(建築学部会)	2回
(看護学部会)	2回	(造形工学・芸術工学部会)	1回
(検査技術科学部会)	1回	農学専門委員会	1回
(放射線技術科学部会)	1回	芸術学専門委員会	
(理学・作業療法学部会)	2回	(音楽部会)	2回
(鍼灸学部会)	1回	(美術部会)	2回
家政学・栄養学専門委員会		体育学専門委員会	1回
(家政学部会)	2回	商船学・海上保安専門委員会	1回

## ○研究部研究会開催状況

### 評価研究部研究会 <平成15年12月～平成16年2月>

#### <公開講演会>

平成15年12月18日(木)

「香港の大学評価」

Ka-ho Mok 教授 (香港城市大学・人文社会学部副学部長)

平成16年2月20日(金)

「高等教育の新統治方式 ― 基礎としての品質と実績 ―」

ピーター・マッセン博士 (オスロ大学欧州高等教育研究機関連合 (Hedda) ディレクター /  
トゥエンテ大学高等教育政策研究所上級研究員)

### 学位審査研究部研究会 <平成15年12月～平成16年2月>

#### <公開講演会>

平成15年12月26日(金)

「アメリカでの学生のアセスメント分類 ― 日本での応用調査をふまえて」

山田礼子 客員教授 (同志社大学・文学部・教授)

平成16年2月9日(月)

「高等教育における e ラーニング：現状と課題」

吉田 文 教授 (メディア教育開発センター)

#### <全体研究会>

平成16年2月24日(火)

「韓国における独学士制度について」

学位審査研究部・助教授 森 利枝

「高等教育の流動化と質の保証」

学位審査研究部・助教授 吉川裕美子

「単位認定の資格名称一覧」

学位審査研究部・教授 六車正章

「高等教育レベルにおける教育評価の進展と課題

― 電子・情報分野を例として」

学位審査研究部・教授 神谷武志

「学位授与事業の現状と課題」

学位審査研究部長・教授 小野嘉夫

(学位授与・高等教育へのコメント・提言)

岩村 秀 客員教授 (放送大学・教授)

安原義仁 客員教授 (広島大学・教育学部・教授)

井下 理 客員教授 (慶應大学・総合政策学部・教授)

## ○中国教育視察団が機構を訪問

平成 15 年 12 月 11 日、李桂苓中国教育部留学サービスセンター次長を団長とする中国教育視察団 5 名が機構を訪れ、2 時間に渡り日本と中国の学位授与制度に関する意見交換が行われました。

機構側からは、小野学位審査研究部長、森学位審査研究部助教授及び木林学位審査課長が出席しました。

はじめに、機構側から森助教授を中心に機構の概要及び学位授与事業について説明を行い、ついで、李次長から、中国の留学生政策及び学位制度について説明が行われ、その後、質疑応答及び意見交換が行われました。中国留学サービスセンターは中国教育部所属の留学に関する業務をしている公的機関であり、教育部の委託により中国人留学生が海外で取得した外国の学位についての認定も行っているため、日本の学位授与制度を中心とした高等教育システムに関して多くの質問が寄せられ、活発な討議が行われました。



## ○研究紀要「大学評価」第 3 号の発行

大学評価・学位授与機構における調査研究の成果として、「大学評価」第 3 号を刊行しました。内容は次のとおりです。

### 【論文】

- ・ 大学評価と大学情報データベース 喜多 一・井田 正明
- ・ 大阪大学における基礎データ収集のためのデータベース構築事例 大西 克彦
- ・ 徳島大学における教職員データベース  
— 定期刊行物・情報公開を指向したシステム構築と運用 — 大家 隆弘・上田 哲史・越智 洋司・矢野 米雄
- ・ 海外の大学情報データベースと日本の可能性 小林 雅之
- ・ The New Accountability for Public Higher Education From Regulation to Results  
Joseph C. Burke Joseph C. Burke  
— 公立高等教育の新たな説明責任 — 規制志向から結果志向への転換 — 林 隆之 訳
- ・ Assumptions Underlying Governmental Assessment and Accountability Practices Frank A. Schmidtlein
- ・ Internal and External Assessment Practices at the University of Maryland, College Park Frank A. Schmidtlein
- ・ フィンランドにおける大学評価と財政配分とのリンク 渡邊 あや・米澤 彰純
- ・ ビブリオメトリクスによるピアレビューの支援可能性の検討  
— 理学系研究評価の事例分析から — 林 隆之
- ・ 総合的品質経営 (TQM) の大学図書館への導入と課題：欧米の事例から 溝上智恵子
- ・ アメリカの大学における TQM (総合品質経営) の活用状況に関するアンケート調査結果 森 利枝・館 昭

### 【研究ノート・資料】

- ・ 大学における品質マネジメントシステムの実践例  
：神戸商船大学における練習船「深江丸」の ISO9002 取得 喜多 一
- ・ 三重県における行政評価による行政の品質保証の取り組み 森 利枝

○委員の異動

高等専門学校評価準備委員会

高等専門学校評価準備委員会が発足し、委員 15 人の方々が就任されました。

任期：平成 15 年 12 月 1 日～平成 16 年 3 月 31 日

氏 名	現 職
東 市 郎	函館工業高等専門学校長
神 谷 武 志	大学評価・学位授与機構教授
神 野 稔	近畿大学工業高等専門学校校長代行
佐 藤 修 臣	鳥羽商船高等専門学校長
椿 原 治	社団法人日本工学教育協会専務理事
徳 田 昌 則	大学評価・学位授与機構教授
中 島 尚 正	放送大学教授
長 島 重 夫	株式会社日立製作所総合教育センタ技術研修所長
松 爲 宏 幸	豊橋技術科学大学副学長
室 津 義 定	大阪府立工業高等専門学校長
安 田 國 雄	奈良先端科学技術大学院大学副学長
柳 謙 一	久留米工業高等専門学校長
四ッ柳 隆 夫	宮城工業高等専門学校長
米 山 宏	阿南工業高等専門学校長
渡 辺 英 夫	仙台電波工業高等専門学校長

短期大学評価準備委員会

短期大学評価準備委員会が発足し、委員 14 人の方々が就任されました。

任期：平成 16 年 1 月 15 日～平成 16 年 3 月 31 日

氏 名	現 職
大 塚 雄 作	大学評価・学位授与機構教授
大 野 博 之	国際学院埼玉短期大学副学長
上 條 宏 之	長野県短期大学長
佐 藤 弘 毅	目白大学長・短期大学部学長
澤 井 昭 男	山形県立米沢女子短期大学長
清 水 一 彦	筑波大学教授
関 根 秀 和	大阪女学院短期大学長
館 昭	大学評価・学位授与機構教授
鶴 見 尚 弘	山梨県立女子短期大学長
野 口 照 義	千葉県立衛生短期大学長
丸 山 利 輔	石川県農業短期大学長
森 脇 道 子	産能短期大学長
山 内 昭 人	学校法人山内学園理事長
吉 田 文	メディア教育開発センター教授

○人事異動（平成 15 年 12 月～平成 16 年 2 月）

年月日	氏 名	異 動 内 容		異動前等の職名
<b>【評価事業部企画主幹】</b>				
16.1.1	加 藤 泰 久	転 任	秋田大学経理部長	評価事業部企画主幹
16.1.1	秋 保 聡	昇 任	評価事業部企画主幹	評価事業部評価第 3 課研究評価専門官
<b>【評価事業部評価第 3 課】</b>				
16.1.1	佐 藤 竜 央	採 用	評価事業部評価第 3 課 (研究評価第 3 係)	
<b>【評価事業部評価調査室】</b>				
16.1.1	秋 保 聡	命	評価事業部評価調査室長	

○海外渡航一覧（平成 15 年 12 月～平成 16 年 2 月）

所 属	職名	氏 名	渡 航 先	目 的	渡 航 期 間
機 構 長		木村 孟	タ イ	大学評価に関する現地調査	H15. 12. 23 ～ H15. 12. 26
評 価 研 究 部	助教授	米澤 彰純	中 国	教育政策評価の体系化研究に関する研究打ち合わせ	H16. 1. 4 ～ H16. 1. 7
評 価 研 究 部	教 授	金口 恭久	イギリス	日本学術振興会ロンドン研究連絡センター運営	H15. 1. 29 ～ H16. 6. 30
評 価 研 究 部	教 授	川口 昭彦	台 湾	台湾の教育に関する研究打合せおよび資料収集	H16. 1. 6 ～ H16. 1. 12
評 価 研 究 部	助教授	米澤 彰純	マレーシア シンガポール	マレーシアプトラ大学、シンガポール国立大学における高等教育の評価システムに関する資料収集	H16. 1. 18 ～ H16. 1. 28
評 価 研 究 部	助教授	齊藤 貴浩	アメリカ合衆国	CHEA 年次大会にて情報収集	H16. 1. 26 ～ H16. 1. 30
評 価 研 究 部	助教授	米澤 彰純	ベトナム	「ベトナム教育セクター調査」ワークショップ出席	H16. 1. 29 ～ H16. 2. 2
学位審査研究部	助教授	濱中 義隆	アメリカ合衆国	米国高等教育機関における編・転入学制度の現状に関する調査研究	H16. 2. 1 ～ H16. 3. 1
評 価 研 究 部	助教授	米澤 彰純	アメリカ合衆国 イギリス	高等教育の市場における組織運営と評価・財政政策の調査研究	H16. 2. 3 ～ H16. 2. 29
評 価 研 究 部	教 授	川口 昭彦	台 湾	「国際的な一流大学、トップ研究センター審議作業及び評価指数」国際セミナー出席	H16. 2. 4 ～ H16. 2. 7
評 価 研 究 部	教 授	岩田 末廣	韓 国	「計算化学の理論と応用」に関する国際会議にて研究発表・情報収集	H16. 2. 14 ～ H16. 2. 21
評 価 研 究 部	助教授	齊藤 貴浩	イギリス	大学評価に関する事務打合せ	H16. 2. 15 ～ H16. 2. 20
評 価 事 業 部 評 価 第 2 課	課 長	河本 雅弘	イギリス	大学評価に関する事務打合せ	H16. 2. 15 ～ H16. 2. 20
評 価 事 業 部 評 価 調 査 室	室 長	秋保 聡	イギリス	大学評価に関する事務打合せ	H16. 2. 15 ～ H16. 2. 20
評 価 事 業 部 評 価 調 査 室	係 員	松浦 沙樹	イギリス	大学評価に関する事務打合せ	H16. 2. 15 ～ H16. 2. 20



## 「夢のような一夜」

評価研究部助手

野澤 孝之

場所はピッツバーグ国際空港、荷物引き取り場の片隅。現地時間で午前4時。到着した12時間前には激しかった表の車通りもいまは絶えて久しい。

—もうひと月遅い旅程だったら、凍死の危険もあったかもな。

霧のかかったような頭で考え、そして習慣のようにジーンズのポケットをおさえる。もちろんそこに期待される財布の感触はない。

—飛行機のなかでトイレに立った時だったか。それとも入国審査を受けたあの時だろうか…

幾度となく辿った思考にまた引き戻される。時間を戻って確かめられないことが不思議に思えてくる。こんなタイミングで財布を失くすということがあまりに出来過ぎで、現実感が薄れてきている。

—最初からこんな調子で、これから1ヶ月どうなるんだろうか。

清掃用カートに乗った黒人男性が近づいてくる。なぜこんな時間に空港で寝ているのかと尋ねているようだ。もう何人にもしてきた事情説明を繰り返す。男性はどうやら「おやおや、気の毒に」らしきことを言い、グッドラックと付け加えてくれる。

—まあ、なんとかかなるか。

やがて半分落とされていた構内の照明が点き始める。外は依然として暗いものの、空港職員だろうか、それとも始発便への乗客だろうか、ポツリポツリとサイドドアから入ってくる。

長い米国滞在が始まろうとしていた…

\* \* \*

昨年の11月14日から12月12日までの29日間、私は調査研究のために米国はペンシルバニア州ピッツバーグのカーネギーメロン大学(CMU)を訪問・滞在した。冒頭は、渡航の初日、成田からピッツバーグへの行程中に現金とクレジットカードの入った財布を失くして身動きがとれなくなり、やむなく空港で一夜を過ごした時の描写である。図らずも「海外渡航余話」のタネを用意してしまった。さいわい更なるトラブルもなく(少しあったのだが省略)、翌日にはカード会社の緊急サービスで現金を得て、予約していたホテルに辿り着くことができた。チェックインするや熟睡したおかげで、その後時差ボケに悩まされずに済んだのがせめてもの慰めであった。

今回の渡航は、私にとって初めての本格的な海外滞在であり、目にするものが日々新鮮だった。しかしそれにも増して印象深かったのは、「異郷」から「地元」への認識の遷移である。滞在していたホテルからCMUへの道程はいつの間にか通学路となり、

頻繁に見かける FedEx のバンは赤帽のトラックに写像され、ダウンタウンで地図を持ちつつキョロキョロしている観光客を見ると「ウェルカム トゥ ピッツバーグ!」という気持ちになる。それだけ居心地が良かったということかもしれない。それにしても、この環境適応力は言語能力に関してはほとんど働いてくれなかった。なんとも残念である。



CMU キャンパスから望むピッツバーグ大学の Cathedral of Learning

さて、ただらと「余話」で押し通そうかとも思ったが、やはり響きを買いたいので、渡航本来の目的であった研究についてもわずかながら触れておく。今回の渡航は「米国におけるネットワーク構造に着目した情報抽出技術に関する調査研究」を目的としたものであった。訪問先である CMU の研究センター “the center for Computational Analysis of Social and Organizational Systems (CASOS: <http://www.casos.cs.cmu.edu/>)” にデスクをもらい、ネットワーク構造分析・計算機を用いたマルチエージェントシミュレーション・社会学的調査研究といった手法を組み合わせた多彩な研究について、説明やデモをしていただいた。ここで得た知識や技術を、本機構における大学評価情報の構造分析の研究などに活かしていきたいと考えている。また同センターの皆様には暖かく気持ちよく迎え入れていただき、クリスマスパーティーを私の滞在日程に合わせてくださるなど細やかなお心遣いをいただいた。深く感謝したい。

最後になりますが、受け入れ先への推薦の労をとってくださった国内の先生方、滞在中にご援助くださった関係者諸氏、そして事業の忙しい最中に貴重な海外渡航の機会をお与えくださりご支援くださった機構教職員の皆様に、この誌面をお借りして御礼を申し上げます。ありがとうございます。

## 「大切にしたい人との出会い」 — 英国訪問 —

評価事業部評価調査室長

秋 保 聡

この度、NIAD-UEが事務局を担当している日英高等教育プログラム（以下「Japan-UK事業」）に関する事務レベル折衝などを行うために英国を訪問する機会を得た。

主な訪問先は、QAA (Quality Assurance Agency for Higher Education) と、HEFCE (Higher Education Funding Council for England) である。まず、QAAにて3月に開催される「キャロライン・キャンベル氏招聘事業」について本人と直接対面し、講演会について事前の具体的な打ち合わせや事務手続き、さらにはQAAとNIAD-UEのそれぞれの事業についての情報交換などを行った。また、HEFCEの訪問ではJapan-UK事業の今後の展開について、日本側の意向を伝えるとともに英国側の状況をうかがい、併せて6月に日本で開催予定のフォーラムと、12月に英国で開催予定のスタディビジット等、事業の具体的な詳細などについても実務者レベルの打ち合わせを行った。



6月の事業については、日時、場所、参加者やテーマ、移動方法やスケジュールなど細々とした部分まで話し合うことができた。日本にいる場合、英国側との打ち合わせや情報交換などは、もっぱら電子メールやファックスが中心であるが、今回の渡英で「やはり、人には実際会ってみるものである」と改めて実感した。相手方の組織を訪れ、それぞれ業務に携わっている方々の人柄に触れ、対面して話し合いを持つことにより、その組織の雰囲気を感じられるだけでなく、より細かく情報交換や調整もできる。何より、お互いの信頼感や安心感が断然違うのである。そう感じたのは私だけではないと思う。

さて、話を本来の「渡航余話」に移していくこととしよう。

渡英第2日目に英国の教育評価機関であるQAAに向かうこととなった。QAAは、ロンドンの西方約100マイル程のGloucesterにあり、列車で約2時間の旅でとなった。当初は「車窓でもノンビリ楽しみながら紅茶でも…」と密かに目論んでいたが、QAA訪問にあたっての最終的な打ち合わせと、次

に待っているHEFCE訪問などの課題整理を始めたから、ゆっくり車窓など楽しむ時間など全くなく、いつの間にか「あと15分で到着します」というアナウンス。車窓からの景色はすっかり変わっていて、ロンドン周辺に見られる大都市のそれとは違い、既に景色は英国の地方都市の様相を呈していた。

QAAとの打合せは3時間にも渡り、大きな成果をもって終了した。そして「さあ、ロンドンに戻ろう！（旨いビールでも飲もう！）」と駅に向かったところ、駅のブラウン管に映し出された運行スケジュール表を見て一同嘖然！なんと「Cancelled（運休）」であった。駅員に尋ねると「振り替えバスでSwindon駅まで行って乗り換えろ」、「後の列車は来ると『思う』からそれでもいい」といった回答。

「Maybe!」と強調されては、後の電車を待つのもそれなりの覚悟が要る。何せ相手はブリティッシュ・レールである。日本人の我々には彼らの行動は読みたい…。我々は相談の結果、バスに乗ることにした。バスを待っている間に「タバコをくれ！」と寄ってきた若者は「ブリティッシュ・レールでは良くあることさ。そうだよ、いつもこうだ！」と言っていた。彼の口調は、はじめは諦めたものであったが、終いには怒っている口調に変わっていたことが印象に残った。やはり「人とは話をしてみるもの」である。ブリティッシュ・レールでは良くあることとはいえ地元の人々も実は怒っているのであった。

結局「列車運休のおかげで、俺はこんな時間に急に仕事になったのさ！」といわんばかりの運転の荒いドライバーに身を任せて、Swindon駅に向かい、そしてそこで乗り継いだ電車でロンドンには約2時間遅れでの既に22時近くに到着する羽目となった。後でわかったことであるが、我々がSwindon駅から乗った列車は、運休となった2時間後の後発列車であった。つまり「Maybe!」という駅員の声を無視してGloucester駅で待っていれば、「英国名物のBarで旨いビールが2時間も飲めたではないか!」と思うと残念でならない。そんな今となっては笑い話となるようなことがこれに限らず山ほどあったが、この渡英は無事に終えることが出来、大きな収穫があったと自負している。

Japan-UK事業は、2001年から事業が始まり、その時々の日英両国の高等教育に関する問題に焦点を当てて、東京、京都、ロンドンでのフォーラム等の開催、両国の相互訪問等、多くの方々の参加、ご尽力を頂き現在に至っており、担当事務局としては、関係者の皆様には本当に感謝しきれず、頭の下がる思いである。今後とも引き続き、ご支援、ご注目を頂けるようお願い申し上げます次第である。

## 編集後記

- ◇ 「大学評価・学位授与機構ニュース」第33号をお届けします。
- ◇ 平成14年度着手の大学評価事業の紹介がなされています。
- ◇ 学位授与事業では、平成15年度10月期の学位授与申請者数が2,129人となり、去年同期と比べ142人増となりました。
- ◇ 中国教育視察団が機構を訪問されました。
- ◇ 研究紀要「大学評価」第3号が発行されました。
- ◇ 今号は、前々号に引き続き、平成15年3月に芸術学で学士の学位を取得された方の作品の中から、審査員の先生方にご推薦頂いた作品が表紙を飾っています。
- ◇ 次号より、新たに独立行政法人大学評価・学位授与機構としてお送りして参ります。今後とも皆様方のより一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。(M.K.)

### 《表紙の作品の解説》

人は変化を求め生きてゆく。  
毎日変わらぬ環境の中、  
同じ物を食べ、  
同じ行動を続け・・・  
そんな退屈な中では  
生きられない。  
人は変化を求め生きてゆく

光で遊ぶ

光を身近に感じる

光と共に生きる

### 《作品イメージ配置》

この作品は、  
生活に欠かす事のできない  
光と、  
進級制作のテーマ  
『PLAY』から  
昔ながらのおもちゃの  
動きを取り入れ、  
楽しめる照明機具として  
制作に取りかかりました。  
幾通りにも  
形を変える事が出来、  
また形を変える事で  
光の調整も可能で  
その時の気分や場所に  
応じて変化させる事が  
出来ます。  
インテリアとしても美しく、  
優しい光を放つので、  
あらゆる空間に対応します。

『光』は日々の生活に変化をもたらしてくれる、  
そんな照明です

京都嵯峨芸術大学 教務助手  
子迫 佳子（平成15年3月学位取得）

編集 大学評価・学位授与機構広報委員会

連絡先 〒187-8587

東京都小平市学園西町1-29-1

大学評価・学位授与機構管理部総務課

電話/Fax 042-353-1516/1552

ホームページアドレス <http://www.niad.ac.jp/>

印刷 明誠企画株式会社

〒208-0022 東京都武蔵村山市榎2-25-5

電話 042-567-6233